



西高同窓会報

発行
山梨県立甲府西高
同 窓 会
印刷
（株）トリオ印刷
甲府市塩部 3-13-3

国際バカロレア導入

甲府西高等学校 校長 齊木 邦彦



昨年七月、県教育委員会は国際バカロレアの教育プログラムを甲府西高に導入することを決定しました。

この教育プログラムは、ジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構が提供するもので、一つの国の制度や内容に偏ることのない、世界標準の教育プログラムです。年齢に応じて四つのプログラムがあり、このうち本校に導入されるのは、高校二年生から三年生にかけての二年間のプログラムで、このプログラムを受講し、世界共通の試験に合格すれば、海外の大学への入学資格が得られ、また国内大学においても一定の定員枠を設けて受け入れていくとされています。

このプログラムでは、英語による授業も増えますが、単なる語学修得が目的ではなく、授業の内容が世界標準のものになること、幅広い学力の向上が促されること、さらに学校全体の教育活動の充実が図られることなどがメリットとなります。県立高校においては多様な教育の場を用意し、それを必要とする生徒を受け入れていくことが求められます。国際バカロレアの教育プログラムにおいても、社会からの要請もあり、どこかの県立高校に導入する必要があると教育委員会では判断したようです。

なぜ西高か、ということですが、甲府市内にあり広い範囲から通学しやすいということ、単位制の普通科であり専門学科やコースがないため新たなプログラムを組み込みやすいということ、などが理由としてあるようです。本校の地理的位置と、現在の教育システムとその成果を考慮しての導入だと考えています。準備期間を経て導入されるのは、平成三十二年度の新入生からです。二年間のプログラムなので、高校入学時ではなく、二年生になる時に登録することになります。バカロレアが掲げる理念を学校全体で共有するためには、このプログラムで学ぶ生徒だけでなく、クラスをつくるのではなく、



西高音楽部

午前中の第一部総会を無事



トークショー 五緒川津平太氏・名執瞭子氏

「時を超えて未来につながる」その笑顔に会いたくて」をテーマに、山梨県立甲府西高等学校第百十二回定期総会が五月十五日、甲府富士屋ホテルにて七百人近い御参加をいただきまして、盛大に開催する事が出来ました。午前中の第一部総会を無事

終了し、午後からはいよいよ私達が采配を振る待望の第二部アトラクションが幕を開きました。今年も西高音楽部の温かくて優しく美しいハーモニを皮切りに、「キヤン・ユー・スピーク甲州弁」の著者五緒川津平太さんと二十五回生の UTYA ナウンサー名執瞭子さんのコラボによる「トークショー」が続きました。甲州弁は、NHKの朝ドラ「花子とアン」で全国的に一躍有名になり、そのぶっつきらぼうで荒々しい語感でありながらも、時には楽しくてユニーク、時には懐かしくて心根に温かさを感じる異彩を放った魅力のある方言です。二人の息の合ったコラ

ボに拍手が起きたり笑いの渦に包まれたりの楽しいトークショーとなりました。この一年間、私達はコンパスを持たずして大海原に出航した帆船でした。座礁や沈没を覚悟し、何時港に着くとも知れない航海に飛び出したのでした。無事目的港に辿り着けたのは、適切に御指導下さいました本会の皆様、励ましていただいた先輩や後輩の方々、関係機関の誠実な支援によるものです。心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。そして、私の心の支柱となつた実行委員や友との友情・団結・信頼等。この貴

百十二回定期総会を終えて

実行委員長 高25回 長田 美沙子



実行委員のみなさん

現状と同じようなクラス編制の中で、希望者はバカロレアの科目を選択する、という形を考えています。女学校から女子校へ、そして男女共学校へと変遷してきた甲府西高が、これまでの伝統と校風を受け継ぎながら新たな教育課程の中で教育活動がさらに充実し、本県高校教育の中核として発展していけるよう学校全体で取り組んで参ります。

私が甲府西高同窓会の運営に関わるようになってから、三十年程になりました。十回毎の回生が総会の実行委員になる仕組みですので、私達の回生は何時も節目の年「八十回、九十回」と実行委員をしてきました。九十回の際は七十歳の方が実行委員長をして下さり、六十歳、五十歳の私達がお手伝いし、次回の実行委員を務めるために勉強もさせて頂きました。そこでアトラクシ



総会が終わった後、暫くは実行委員をした方々と食事会もしていました。勉強になったことは、年齢の違う人たちと同じ目的に向かつて仕事をすることで、先輩を敬い、また論議され、人間関係を学ばせて頂いたことです。九十周年の時は、世の中の景気が良く、総会誌を作るための寄付が予定以上に集まりました。そこでアトラクシ

同窓会の思い出

甲府西高等学校同窓会 会長 高14回 長坂 光子

ヨンに菅原洋一を招いて盛大に総会を開きました。この時から総会に有名人を呼ぶようになった。何年か続きました。でも段々有名人を呼ぶこともどううかという意見も出され、同窓生や在校生に発表の場を提供してはどうだろうかという提案があつて今に至っています。長い歴史の中で、恒例の同窓会行事はマンネリ化になつており、新しい風を入れるのも良いのではないかと思います。あと二、三年は女性会長に委ね、事務局を作り、誰もが会長を引き受けやすいシステムにしたいと思っています。世の中はすごい勢いで変わつていっても、人間の気持ちは変わらないものだと思います。最後に「有志意成」（後漢書・光武帝より）志有れば意に成る。人は物事をやり遂げようという堅い志さえしつかりしていれば、どんな困難に突き当たつても必ず成し遂げることが出来る。という言葉を贈ります。甲府西高と同窓会が、ますます発展することを願つて止みません。

同窓会 この一年

講演会

朗読音楽会 「いいもんだ」

朗読 高59回 千須和直輝・マリンバ 高65回 萩原 舞



今年の講演会は、同窓生の若手アーティストを応援しようという企画の第一弾で、朗読楽団おとぎ日和の朗読と、マリンバ演奏者との共演で「いいもんだ」が開催されました。

《アンケートより》
千須和さんの朗読、萩原さんのマリンバ、とても良かったです。卒業生に才能

のある方が大勢いて、頼もしい限りで感動しました。

朗読 千須和直輝
本日は同窓会にお招きいただき、ありがとうございます。また、慌ただしく去ってしまい、きちんとお礼もできず申し訳ありませんでした。朗読する際は、お客様の顔がよく見えるのですが、皆様真剣に聞いてくださっている様子で演技に集中することができました。皆様楽しんでくださいましたら幸いです。

舞さんとの共演も含め、なかなか得難い経験をさせていただきました。今後何か機会がございましたら是非お声がけください。

マリンバ 萩原 舞
貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございます。(企画部)

私が同窓会に関わるようになったのは、平成十二年同窓会の実行委員になった時からでした。

高十回生、二十回生、三十回生の方々が行ない、高十回生が中心になり、総会が終りホッと致しました。その後、常任理事となり



企画部に入れていただき微力ながら現在に至りました。

企画の仕事は、七月の鳳凰祭、九月の講演会、十月のレクリエーションの計画等を行ないます。鳳凰祭は現在中止になっております。

企画部に入って

甲女41回 梅本 民子

講演会は、同窓会OBの方や知人をお願いして知

識を深めております。一昨年は、甲州印伝のお話をさせていただきました。レクリエーションは、十月に甲女、二高、西高と年令に係なく、バスで一日、名所旧跡等を見学し、親睦を深めております。昨年、上田の大河ドラマ館と真田宝物館を訪ねました。三年前には、東京支部の方々とのお会で、親交を温め、皆様に喜んでいただきました。どこに行く時でも、必ず安全のために下見を行っております。

何十年も続いたレクリエーションも、今年から休止となります。なんとなく淋しいですが、他の事で、皆様と親睦を深められるように願っております。六月頃、ミニコンサート等の声も出ており、実現できることを願っております。

東京支部 だより 交流の場を広げて

高9回 小西美代子

東京支部は、五十回以上前に、甲女を卒業された方々が中心となり、東京・千葉・神奈川・埼玉など東京近辺に在住されている方に呼びかけられ発足しました。その後、卒業生にも参加者が広がり、今

回五十四回東京支部同窓会総会を五月二十八日に昨年と同じグランドプリンスホテル新高輪で開催いたしました。

東京支部総会も甲女卒業の方々の出席が徐々に少なくなっており、心強く感じています。

東京支部の活動の歴史・資料を若い世代の方々に引き継いでいくために、五十年来の活動資料を整理して、パソコンに収めました。



報道等で西高生の活躍を知る度に、我がことのように嬉しく誇りに思っております。

今後とも、各幹事と協力し東京支部が発展していけるよう活動を続けてまいります。

レクリエーション

真田の歴史を感じる 信濃路を旅して

高45回 永井 学

平成二十八年十月十八日最高の秋晴れの下「同窓会一日バス旅行」が行われました。私はここ数年、ほぼ毎年参加をさせていたいただいており、いつも男性参加者が少ないため、紹介させていただいておりました。

今回は大河ドラマ「真田丸」をテーマに、大河ドラマ館と真田宝物館を見学しました。元々歴史好きでしたので、このテーマを聞いて非常に楽しみにしております。

真田宝物館へ移動。ここは、真田家十二代当主幸治氏により、一九六六年に譲渡された武器や調度品、書画、文書などの大名道具を収蔵展示されています。

ゆっくり真田関係の書状等を見学した後は、海津城跡公園を散歩しました。



その後、松代にある大河ドラマ館は、平日にも関わらず行列の人だかり。改めて大河ドラマの人気の高さ、そしてそれによる絶大な経済効果の恩恵を実感しました。ドラマ館の中では、真田信繁の鎧や資料などが分かりやすく展示されており、ドラマを見る上でも、歴史を理解する上で非常に勉強になりました。

昼食は茹でたての信州そばを、お腹いっぱいいただきました。

その後は、松代にある真田宝物館へ移動。ここは、真田家十二代当主幸治氏により、一九六六年に譲渡された武器や調度品、書画、文書などの大名道具を収蔵展示されています。

ゆっくり真田関係の書状等を見学した後は、海津城跡公園を散歩しました。

最終見学場所を離れ、帰路につきますが、バス旅行のお楽しみは恒例の合唱タイム。先輩方の青春時代に流行った歌謡曲の熱唱。甲府高女、甲府二高・西高の校歌斉唱。校歌を歌うと、本当に一体感が生まれます。

そして、今年のスペシャル企画のお楽しみ抽選会。景品は、企画部員の心がこもったものでした。おかげでバスを降りるその瞬間まで、大変楽しい時間を過ごすことができました。

次回のバス旅行にも、また参加したいと思っております。今度は、もっと「黒一点」を増やしたいと思っております。

各部の活動

事務局

平成二十八年年度から総務部が事務局と名称を変更し、仕事内容も整理されました。具体的には、各部との連絡調整、会長への報告・データや記録の保存管理・会員名簿の作成や管理・渉外業務・資産管理・常任理事会、理事会の開催通知等の印刷発送作業等、同窓会活動が活発、スムーズに運営できるように努力しております。

その一環として二月には印刷機・コピー機・書庫の新規購入をしました。名簿の管理については確実な情報把握の下に、更新・保管に努めます。

企画部

企画部(回生対策係)の活動は本会の事業としての講演会・レクリエーションを年に一回ずつ理事会の前後に開催します。新年度から講演会を中心に活動します。

会計部

今年度は念願だったコピー機、印刷機を購入致しました。より事務が効率的に行われると思っております。これからも同窓会の皆様が速やかに活動できるよう努力します。

庶務部

常任理事会、理事会の会議録の作成と、年一回発行する会報の作成にあたりております。

会 員 は 現 在

音楽部（合唱）の思い出

高17回 渡邊ひろみ



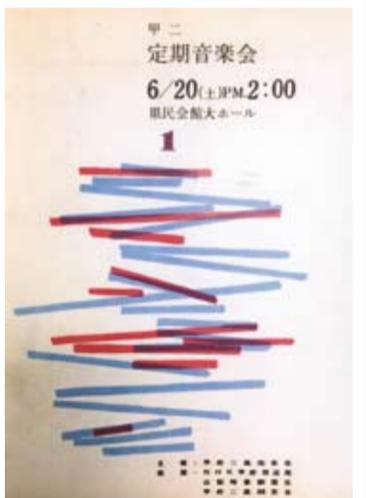
任せられ、総勢七十余名の部員と色々な計画を立て、頑張りました。他校との音楽交換会も積極的に行ない、活動の内容や練習方法など、大変勉強になりました。

私は、甲府二高を昭和四十年度に卒業しました。在学中は、なんとと言っても音楽部での活動が、一番楽しかったです。

三学年の時、私は部長を

私は、甲府二高を昭和四十年度に卒業しました。在学中は、なんとと言っても音楽部での活動が、一番楽しかったです。

三学年の時、私は部長を

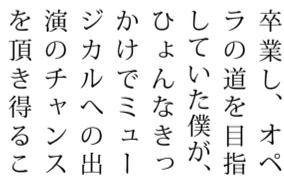


碧きドナウ」他六曲で、とても難しい曲でした。当日は、皆緊張していましたが、沢

二高定期音楽会が、開催されました。私達合唱部を始め、管楽器部、吹奏楽部、弦楽部が日頃、一生懸命に積み重ねた成果を、校外で演奏する機会を初めて得られたのは、とても記念すべき事だと思いました。歌の練習はもとより、選曲や演奏時間と順序、広告取り等、全て初めての事ばかりで、部員と意見が合わず涙した事もありました。曲目は、「モルダウ」、「美しき

山の方々の、熱い応援を得て、立派に歌う事が出来ました。部員達の顔は、自信に満ちて、輝いていました。私も、全て無事やり終える事ができた時、胸がいっぱいになりました。

高校生活の中で、沢山の事を学ぶ事が出来たあの時、若い力と新たな経験への興奮が、一番心に残り、こうして五十年経った今も、忘れられません。



とができた稀有な体験。事実、この体験を経たのちでは歌や芝居、舞台に立つことへの考え方が全く違うものとなりました。

自彊術に感謝

高26回 木浦原秀子



自彊術は大正五年に中井房五郎氏によって、中国三千年の按蹠導引術の流れを汲む治療術から作られました。自彊術という名前の由来も中国古典「易経」の一節、「天行健

二〇一六年は自彊術生誕百年の年でした。百年の歴史をふり振り返り、これまでの先人の遺業に感謝し百年祭が各地で行なわれました。二〇一七年、年明けの全日本高校女子サッカー選手

今日は一日が笑顔でいられるように自彊術に感謝。

自彊術体操を始めて二十十年になります。子育ての真最中の三十代にリウマチを発症しました。いろいろ良いと言うことはやってみました。ご近所では自彊術をしている方に誘われて始めました。皆と一緒にするから楽しく続けられたのだと思います。

自彊術指導養成の研修会に参加することで、ますます自彊術の奥深さに気づかされていきました。今は、本来のピアノ教師、自彊術指導員として活動しています。

二〇一六年は自彊術生誕百年の年でした。百年の歴史をふり振り返り、これまでの先人の遺業に感謝し百年祭が各地で行なわれました。二〇一七年、年明けの全日本高校女子サッカー選手



それは、少女の頃に、憧れ見た夢、かかった魔法。小学生の時に見た、一枚のジュエリーの写真、その輝きに魅せられて、私はジュエリーデザイナーになりました。この頃から、病気や怪我をしても、年だからと諦めず、自分の治療力を信じて自彊術を続けてやっていけるように努めていきたいです。

その魅力は増していきます。人は、どんな時にジュエリーを手にするのでしょうか。大切な人への贈り物や、自分への御褒美に、時に守りとなり、私達の人生に寄り添うものとなります。只今、オーダーにて制作を承っておりますが、お客様それぞれの生きる道に、それぞれの華を添えさせて頂くかの様です。ジュエリーには、それ程の力があると、信じています。

私が少女の頃に憧れ、夢見たもの。今、振り返ると一本の道が出来ていきます。あの頃と変わらぬ憧れの想いと、人と交わ

六年前の、東日本大震災。あの日、私は、何もかもを飲み込む、真黒な津波を映すTVの前に、何も出来ずにおりました。その時「世界に色を。私に出来る事を。」そう思い

立ち、一心に制作したのが「幸福の王子」という作品です。オスカーワイルドの著書から、その名を冠したこの作品は、黒から紫青緑黄燈赤と、世界中から集めた様々なビーズで一粒一粒縫い留め創りました。この色を人々に届けてくれる。つばめも、ビーズで編み形成しました。



〈幸福の王子〉

私のあゆむ道

高45回 渡邊 佳苗



それは、少女の頃に、憧れ見た夢、かかった魔法。小学生の時に見た、一枚のジュエリーの写真、その輝きに魅せられて、私はジュエリーデザイナーになりました。この頃から、病気や怪我をしても、年だからと諦めず、自分の治療力を信じて自彊術を続けてやっていけるように努めていきたいです。

その魅力は増していきます。人は、どんな時にジュエリーを手にするのでしょうか。大切な人への贈り物や、自分への御褒美に、時に守りとなり、私達の人生に寄り添うものとなります。只今、オーダーにて制作を承っておりますが、お客様それぞれの生きる道に、それぞれの華を添えさせて頂くかの様です。ジュエリーには、それ程の力があると、信じています。

私が少女の頃に憧れ、夢見たもの。今、振り返ると一本の道が出来ていきます。あの頃と変わらぬ憧れの想いと、人と交わ



〈幸福の王子〉

あふれる愛を

～ミュージカル「ジャージーボーイズ」の舞台より～
高60回 山野 靖博

昨年度の個人的な二ユースといえ、何においても東宝ミュージカルへ出演したことで、会場は東京・日比谷のシアタークリエ。一九六〇年代、アメリカのニュージャージー州ベルヴィルから世界規模の活躍をしたロックバンド「フォージーズ」の成功譚を追う『ジャージーボーイズ』という作品でした。演出は、



とができた稀有な体験。事実、この体験を経たのちでは歌や芝居、舞台に立つことへの考え方が全く違うものとなりました。



陸上部

飛翔! 西高生



音楽部

「飛躍」さらなる高みへ

陸上部 牛山 翔太

私たち陸上競技部は、平成二十八年度の活動において、多くの成果を残すことができた。県高校総体では、男子四〇〇mH、男子棒高跳び、女子走高跳び、男女四×一〇〇mR計五種目で関東大会へ出場することができた。また、新人大会では男子一〇〇m、男子四〇〇m、女子一五〇〇m、女子三〇〇〇mで関東大会に出場。さらに、県女子駅伝大会でも関東大会出場を果たした。駅伝競技での関東大会出場は本校史上初の快挙であり、長距離種目にとつては飛躍の年となりました。一方で、普段通りの力を大会で発揮できず、悔し涙を流した仲間もいました。一人ひとりが自分の改善すべき点を把握し、良い結果が残せるよう邁進していきます。また、関東大会に出場した選手は、そこで見たことや学んだことをチームに伝え、チーム一丸となつて練習を積んでいきたいと思えます。今年度は顧問が陸上競技専門の先生ではなく、選手たちの怪我が多かつたりと、昨年度とはチーム状況が大きく異なるスタートとなりました。しかし、個々で不足部分を補いつたり、指摘し合つたりと互いに切磋琢磨しながら練習したことが自分たちの成長に繋がつたと思えます。来年度の目標は一人でも多くの入賞者、関東大会出場者を出すことです。この目標を達成するため、楽しくも厳しく部活動に取り組みんでいきたいと思えます。最後に、西高陸上部を応援してくださつた先生方、保護者の方、先輩方、すべての方々に感謝の気持ちを絶えず持ち続け、日々の活動に臨んでいきます。これからも西高陸上部への応援の程をよろしく願っています。

驚きの金賞

音楽部 小澤 ゆみ

私たち西高音楽部は、八月に行なわれた第六十九回全日本合唱コンクール山梨県大会において金賞を受賞し、関東大会に出場しました。この大会は夏季休業明けに行なわれるので夏の練習の成果が試されるとも重要な大会でした。そんな大会で結果を出すことができ、結果発表の瞬間はさぞ喜んだかと思いきや、私たちはただただ驚いていました。部員の中には「えっ」と声の出ってしまった者や、困惑のあまり口がいた状態でも夢が一つ叶つたことや、まだ同じ仲間である大会以外にも多くの大会に出場しており、その度に私から部員に必ず言っていることがあります。それは「一番を狙うこと」です。この言葉には、出場する大会と、共に戦うライバルのために本気でぶつか

西美会だより

高22回 大久保はるみ



八八五名、昨年の「西美会展」への来場者数です。多くの方に会場頂き、感謝申し上げます。西美会の大きな行事「西美会展」。凛とした顧問の先生方の作品、会員の落ち着いた作品、その中に若さみなぎる西高美術部の生徒の作品が並びます。母校を核とした異年齢集団の稀なる美術展、今回で五三回を数えました。西美会展では御来場頂いた方に出品目録と共に



にお渡しする葉が、これにはお礼の文が印刷された四角の用紙に、会員それぞれが絵を描いたり、布や紙を貼つたりと個性あふれる作品となっており、毎年これを楽しみに来て下さる方もいらつしやいます。秋には研修会を行ないます。昨年は青梅方面への一日旅にかけ、玉堂美術館を鑑賞し、その周辺の散策を楽しみ、会員の良い親睦の時となりました。西美会の行事に参加して強く思う事は、会員が強い絆で結ばれ、切磋琢磨し歩んでいる事です。そんな姿勢が半世紀を越える西美会展につ

編集後記

今年もまた、庭先に春を告げる花々が咲きそろいました。

日頃より、原稿依頼者探しを心がけ、広く情報収集をしています。毎年のことながら、難題です。

一月中旬までに原稿をお寄せいただき、二月に入ると紙面構成にとりかかります。部員一同、悪戦苦闘しながら、担当紙面の編集校正を重ね、より良い会報をお届けできるよう努力しております。

前回より、同窓生の皆様への俳句・短歌を掲載しています。さらに今回は初めて「親子」での原稿をお願いしたところ、快くお引き受けいただきました。

先輩方から受け継いでいる伝統ある会報へのご意見ご要望をお寄せ下さい。また、原稿依頼者をご紹介下さい。お待ちしております。年一回発行の会報ではありますが、多くの同窓生、在校生に読まれ、性別、年齢を越えて結ばれる「絆」になることを願っています。

憶い出の句

甲女40回 山本 昭子

果てしなく続く句の道初寢覚

初松籟武田の杜の鳥翔てり

日の射して木の芽きは立つ村やしろ

句に更ける友見習ふや秋灯し

戦なき世を祈る人聖夜の灯

平成の始めのころ、と、いかにも秋に入ったと教職を終えた私は、文学館で、飯田龍太先生の句を拝読することが出来ました。

『露草も露の力の花ひらく』
露に濡れた路傍のくさむらに見かける
広瀬直人先生、福田甲子



雄先生、井上康明先生……に引き続き、佳き句への御指導をいただき、人間として心豊にどのよう生きるのかを、学び続けています。西高同窓会にも句を愛する方々が集まり良い句作りの会が出来ることを望んでいます。句会ばかりでなく、「書」に「絵」にその他の趣味に努力される方々も多いかと思えます。そのご努力の様子など会報にお知らせ戴けたらと。同窓会会報の益々の発展を祈っています。

お知らせ

第114回同窓会定期総会

開催日 平成30年5月13日(日)

ご出席をお待ちしております。